

製品名: Reg IV ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16998**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	REG4
別名	REG4; GISP; RELP; Regenerating islet-derived protein 4; REG-4; Gastrointestinal secretory protein; REG-like protein; Regenerating islet-derived protein IV; Reg IV
遺伝子 ID	83998.0
SwissProt ID	Q9BYZ8
免疫原	ヒト Reg IV の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

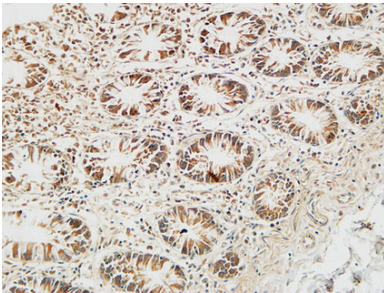
機能: 消化管上皮の炎症および化生反応に関与している可能性がある。誘導: 活動性クローン病または潰瘍性大腸炎による粘膜損傷に

よってアップレギュレーションされる。結腸直腸腫瘍でアップレギュレーションされる。胃および十二指腸の消化性潰瘍の再生縁にある上皮細胞でアップレギュレーションされる。、オンライン情報: 再生タンパク質 IV,類似性: 1つのC型レクチンドメインを含む。、組織特異性: 十二指腸、空腸、回腸、回盲部、虫垂、下行結腸、膵臓、小腸を含む消化管で高度に発現している。正常な結腸および胃では弱い発現である。ほとんどの結腸直腸腫瘍では、正常結腸よりも強く発現している。粘液性腫瘍で優先的に発現し、場合によっては神経内分泌腫瘍でも発現する。粘液分泌細胞および腸管上皮細胞様細胞で発現する。小腸では杯細胞の基底核周縁層に発現する。、機能: 消化管上皮の炎症性反応および化生反応に関与している可能性がある。、誘導: 活動性クローン病または潰瘍性大腸炎による粘膜損傷によって発現が上昇する。大腸腫瘍において発現が上昇する。胃および十二指腸の消化性潰瘍の再生縁にある上皮細胞において発現が上昇する。、オンライン情報: 再生タンパク質 IV,類似性: C型レクチンドメインを1つ含む。、組織特異性: 十二指腸、空腸、回腸、回盲部、虫垂、下行結腸、膵臓、小腸を含む消化管で高度に発現する。正常な結腸および胃では弱い発現を示す。正常結腸よりも大腸腫瘍の多くで強く発現する。粘液性腫瘍では特に強く発現し、神経内分泌腫瘍では一部の症例で発現する。粘液分泌細胞および腸管上皮細胞様細胞でも発現する。小腸では杯細胞の基底核周縁部に発現する。

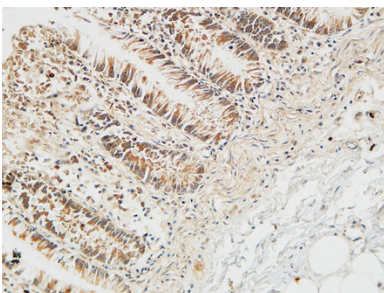
研究分野

免疫学; 分泌分子; その他の分泌分子; がん; 腫瘍バイオマーカー

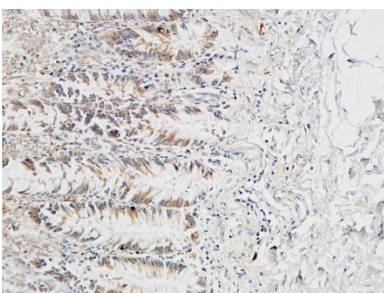
画像データ



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。